
夢

ハードボイルド探偵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢

【Nコード】

N4369V

【作者名】

ハードボイルド探偵

【あらすじ】

ここはどこだろうか…何も分からない。

(ここはどこだ…)

真っ白な空間の中に、ただ一人俺はいた。

真っ白な世界は果てを知らないと言っていていいほど、ずっと周囲に広がっていた。

「ねえ、君」

「うお!!!??」

誰もいないと思っていた空間に、ただ一人見知らぬ少年が、俺から5mほど離れた場所に立っていた。

「お前…誰?」

「誰だっていいじゃない」

少年はそう言うと、にっこり笑い俺の周囲を歩き出した。俺もついていこうとしたが、どうにも足が動かない。石のように重く、地面から離れようとしれないのだ。

「君、名前は?」

「夜空蒼よぞらあざ…お前のことは、なんて呼べばいい?」

「ウルブ」

「そうか…ウルブな」

「ねえ」

ウルブは立ち止まって、急に俺のほうへ顔を寄せてきた。

「君の夢は？」

「ねえよ」

「僕はコックさん」

「…」

「僕の料理でみんなを元気にさせたいんだ。僕の夢は叶うかな？」

「夢を叶えるって事はそんな簡単じゃねえよ」

俺はいつの間にかキレていた。

小学生ぐらいの子供にだ。

そんな中でも、ウルブは表情を変えなかった。

「夢を叶えるには、険しい筋道を考えて、それを実践しなくちゃいけない。考えるだけでも、門を開けるだけでも必死なのに、その先にある道はもつと険しい。甘い考えじゃ、夢なんて叶えられないんだよ、一生な」

ウルブの顔が急に無表情になった。

俺はそんなウルブから目を逸らした。

別に嘘は言っていない、でも………

「君は」

ウルブはあそこまで言った俺にまだ声をかけてきている。

顔を上げるとそこには、笑顔のウルブがいた。

「君は今、ひとつの嘘を言った」

「…」

「夢が『無い』んじゃないくて、『あつた』でしょ？」

「だったらなんだよ」

「僕は君の夢を応援してる。でも、君があきらめてちゃいけないん

だ。僕の応援は、君の気持ちしだいなんだ。あきらめないで。夢はそこに行くのが目標じゃない、どうやってそこまで行ったのか、そこが重要なんだよ」

「はあ、はあ、はあ……」

俺は荒い息を吐いて飛び起きた。目の前のテレビの画面には、『GAME OVER』の文字が写し出されていた。カーテンの間からは心地よい光が差し込んでいる。俺は部屋の隅にある、勉強机の上にあるものに目を向けた。ずっと使っていなかったため、埃を被ってしまっていた。俺はゆっくりと立ち上がり、机の前まで歩き、埃まみれの手をとり、中を開けた。何も無い。外見とは裏腹に中はとてもきれいだった。

「……そろそろ、がっこ、行くか……」

俺はかばんの埃を払った。

(後書き)

どおもどおも、『ハードボイルド探偵』です。今回は、まじめな文学系に挑戦してみました。いかがだったでしょうか？

実際自分的には、苦手なんです。こういう、現実味ありありな奴って…。しかし書き始めると、以外にも、ペンが(というか、指が)止まらなくなっていました。

自分の中でもかなりの力作だと自負しています。暇があれば自作も作ろうと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4369v/>

夢

2011年10月8日23時22分発行